



2020年 4月 3日
第137号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



2020年4月1日より

新たなジョブローテーションを
点検・検証しよう！

その2

「新たなジョブローテーションの実施」がされています。

JR東労組は、新たなジョブローテーションでは多くの異動が発生すること、職場に10年以上いる熟練者がいなくなることで、安全やサービスレベルが守れないのではないかと懸念を抱き、団体交渉でも会社に伝えてきました。安全面に関して、会社は以下の様に回答しています。お客さまの命を預かる鉄道にとって、安全が第一です。会社の主張の通り、新たなジョブローテーションの実施により安全・サービスレベルが向上しているか、私たちがきちんと検証していきましょう。

【新たなジョブローテーションの実施により 安全・サービスレベルを向上していける根拠は？】

会社回答

- 職場における技能講習期間は変わらない。
- これまでも新入社員としてのスタートは駅からであった、お客さまに一番近いのは駅である。今後も駅を皮切りに運用していく。
- 新入社員で大卒女性が一番増えている。今のライフサイクルでの年齢を考えると、妊娠、結婚、出産と重なる可能性が高くなり、長期間の研修に臨めなくなる。ジョブローテーションはライフイベントに対応できるように、仕事と育児を両立できるような柔軟な人事運用の一つの現れである。
- 駅、車掌、運転士の経験の順番が変わっても、転勤などしてもらうので経験値は高まる。
- 一か所で留まると経験値が頭打ちになる。他の運輸区に行ったり指令を経験したり、指導をやったり、幅広い経験を積むことで全体のスキルが上がることを期待したい。
- 必要なスキルを職場単位で持つことが重要だ。ジョブローテーションは多様な社員が多様な面で安全を見直すとなれば安全のレベルが上がる。
- 同じ人が指導操縦者を続けていくより、育てることも重要だ。情熱を持った指導操縦者がいることは会社としていいことだし、育てていくためにもジョブローテーションを回したい。

(申20号「新たなジョブローテーションの実施」に関する説明申し入れ第8項、第9項より)



鉄道にとって安全が第一！

新たなジョブローテーションで安全・サービスレベルが 向上しているかきちんと検証していこう！

安心
安全